



川越市立霞ヶ関東小学校だより

学校教育目標

たいよう

第3号 令和6年5月31日(金)

【た】 たくましい子
【い】 生き生きと活動する子
【よ】 よく考える子
【う】 美しい心の子

折り合いをつける

校長 関根 努

校庭の木々が日増しに色濃くなり、緑の美しい季節になりました。今年度も始まり、約2か月が経とうとしています。ご多用の中、個人面談にご協力いただきありがとうございました。時間も限られていて、なかなか十分な話し合いは難しかったかと思いますが、これを機会に担任とよりよい関係をつくっていただければと考えています。何か心配事がありましたら、どうぞ担任や学校にご連絡ください。よりよい解決に向け、一緒に考えていきましょう。

さて、新しい環境にだんだん慣れてきた頃ですが、子供たちは、日々の生活の中で思い通りにならないことにたくさん出会います。勉強のこと、遊びのこと、友達関係など、むしろ、思い通りにならないことの方が多いのかもしれませんが。

そういうときに、どのように折り合いをつけていくのか、折り合いのつけ方を学ぶことも、生きていくうえではとても大切なスキルだと感じます。このスキルを身に付けていくためには、色々な体験をすること、そして、その中でたくさんの人と出会うことが大切だと考えています。遊びの中で譲り合いやあきらめずに努力して、今までできなかったことができるようになること等、一つ一つの体験を通して、子供たちは、頑張る力や我慢する力、そして、人に感謝する心など大切な「生きる力」を身に付けていきます。

学級会では、「自分もよく、みんなもよい」という視点で話し合いを進めます。「自分もよく、みんなもよい」とは、自分の思いをただ我慢すればよいということではなく、お互いの思いや願いを認め合う、納得できる解決策を見つける、相手の立場に立った上でどうするか考えるということです。いろいろな考えのよさを活かし、折り合いをつけながら一つのことを決めていくことで自分の意見も友達の意見も同じように大切にすることを学びます。

「白か黒か」「0か100か」ではなく、グレーゾーンや50という「真ん中」に考えを寄せていくのが「折り合いをつける」ことになります。はじめから答えはひとつだと決めつけることなく、色々な考えを取り入れようとする柔軟性をもつように心がけることが大切です。

子供が勉強や遊び、友達関係等で悩んでいるとき、身近な大人にできるサポートは、折り合いのつけ方を教えていくことだと思います。問題に対してすぐに解決策を示すのではなく、子供の気持ちを十分聞いた上で「自分はどうしたいのか」「どうしたらいいのか」を促し、自分の気持ちに向き合わせてみてください。そして、相手の気持ちも考えられるようになった時に、折り合いをつける解決策を一緒に考えるのはどうでしょうか。

